

Atsuko Kudo Mail Magazine 250

2022.03.03

●近況報告 ●ドイツの救援活動 ●ハバクク書

ハレルヤ！主の御名をほめたたえます。

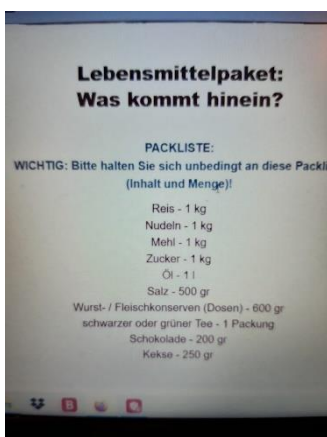
いつも AKWM のためにお祈りご支援くださり、
心からありがとうございます。

今年の札幌の冬は、大変な大雪となりました。積雪量は例年の3倍。一世紀近く生きて来た父が、こんな冬は初めてと言うほどです。1月から2月上旬にかけてのドカ雪は粉雪で軽かったのですが、先週の吹雪は、湿った雪が暴風に打ち付けられて岩のように固まり、その重たい雪岩の除雪は大変なものでした。それでも、2月中旬から、小鳥がさえずるようになり、見えない春の到来を感じます。

●ドイツの救援活動

ウクライナが大変な状況になりました。今、ドイツの多くの教会、ミッション、団体が、一斉に動き始めました。昨日、今日と、いくつかの団体から、状況説明と、支援・献金要請のメールが入っています。

ハンブルクの母教会では、食料、衣類を段ボールに詰めて難民キャンプに運ぶ準備をしています。今日はベルリンにも多くの難民が到着したようです。



いつも思うのですが、ドイツの救援活動のオーガナイズは見事なものです。「米 1Kg, 麺類 1Kg, 小麦粉 1Kg, 砂糖 1Kg, 油 1Kg, 塩 500g, 加工肉類 600g, お茶パック 1, チョコレート 200g, お菓子 250g・・・をしっかりした段ボールに詰める。その他、寝袋、防寒服、防寒靴などがあれば、大きな段ボールに入れて・・・」そんな連絡が入ると、人々はいそいそと準備を始めます。それを各団体の集荷場所まで運び、今度は、運搬ボランティアたちが難民キャンプまで運ぶわけです。

1989年11月9日、ベルリンの壁が崩れた時のことを思い出します。東ドイツから人々が一斉に西に流れて来た時、ハンブルクでは、多くの住民が港で炊き出しをし、空き部屋、空き家がある人は寝る場所を提供しました。数年前、100万人以上の難民がドイツに押し寄せた時も、ドイツ人の多くが、市が難民施設を増築するまで、空き家を提供。私も、小さな働きでしたが、ハンブルクの教会で週に一度難民のために開いたカフェに来るイラン人のお母さんたちの話を聞き、生活に必要なドイツ語を教える奉仕に加わりました。このような教会の働きを通して、ドイツでは、アラブ人、特に多くのイラン人がイエス様を信じ、洗礼を受けるようになりました。

●ハバクク書

ハバクク書では、他の国、町に害を加える者（国、町）は、同じ目に遭うと語っています。

ハバクク 2：4～8 見よ、その魂の正しくない者は衰える。しかし義人はその信仰によって生きる。・・・「わざわざいなるかな、おのれに属さないものを増し加える者よ。いつまでこのようであろうか。質物でおのれを重くする者よ」。あなたの負債者は、にわかに興らないであろうか。あなたを激しくゆすぶる者は目ざめないであろうか。その時あなたは彼らにかすめられる。あなたは多くの国民をかすめたゆえ、そのもろもろの民の残れる者は皆あなたをかすめる。これは人の血を流し、国と町と、その中に住むすべての者に暴虐を行ったからである。

主がみことば通りに、速やかにご自身の正義をあらわしてくださいように。

ウクライナは、欧州で最もクリスチャンの多い国です。それだからこそ、今、悪の霊の力が激しく攻撃しているようにも思います。今、ウクライナの多くのクリスチャンたちは、ひざをかがめ、手を天に上げて祈っています。私たちも祈りをもって、この霊の戦いに加えさせていただこうではありませんか。

●今後の予定

今度は3月7日から23日まで大阪です。

少し先になりますが、4月9日、14時より、芦屋福音教会にて、芦屋キリスト教協議会主催によるプレイスター・フェスティバル（コンサート）を予定しています。人数制限を設けてのコンサートになりますが、YouTubeでも配信される予定です。チラシが出来ましたらまたお知らせいたします。主がよき伝道のチャンスとしてくださいますようお祈りください。



主の恵みと平安が、皆さまとともにありますように！

工藤篤子